



# -「A」の侵食-

-Yu-Gi-Oh! Fan book-

**DOJIN**  
**R18**  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止



えっくす亭 初同人作品

—「A」の侵食—

—Yu-Gi-Oh! Fan book—

DOJIN

R18

成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

ブラックマジシャンガール  
B・M・G  
参上♡

えっ!?

ちょっ…

キル…

あっ♡

おっ♡

あっ

おほっ♡



突然の襲来……未知の能力を持った生命体は、自らの力を見せつけるかのように『住人達』を蹂躪していく。

おそろくは洗脳なのだろうか……。怪光線を浴びた彼女は地面に四肢を投げ出し、両足を広げて恍惚の表情を浮かべている。

「あはっ♡にやにこええ〜♡あたまのなか……。ふわふわしゆるのお……。♡」

既に乳房は顕わになり、得体の知れない生物が這い回っている。肛門は押し広げられ、内部はグネグネと生物が蠢き、まるで腸液を外に掻き出しているようだ。

この生命体は何を目的にしているのか……。知る必要は無いとばかりに、生命体は目の前の『苗床』に光線を浴びせ続けた……。



宇宙人だか何だか  
知らないけど……

この学園を好きに  
させる訳には  
いかないわっ!!



抵抗する勢力もあったが、大方は生命体達の予期せぬ奇襲によって壊滅した。彼女もまた、成す術無く屈服した者の一人だ。

生命体の戦士に組み伏せられ、強靱な腕で動きを封じられる……。『これから何をされるのか』という疑問を持つ前に、すでに答えは出されていた。

「いやああああああつ!! やらああああ!! ソコらめええええ!! 先輩っ……。たすけへえええ!!」

意気揚々と戦いを挑んだ彼女の勇姿は既にそこには無く、ただ一匹の雌として犯されるだけだった。信じられない量の精液をその肉体に注がれながら、彼女はただ己に叩きつけられる欲望に苛まれ続けるよりなかった。

男はどうなったかわからない。女もどうなるかわからない。生命体の戦士の獰猛な瞳は、ただ怪しく光るだけだった。

くっ……!!

こんな異形の  
化物共に  
この妾が……

ヒツ……!!  
ま待て……

何だ  
コイツは……

くっ  
来るな……

情けなどいらぬっ!  
だが……他の者達  
だけは……

うあ……

ハーピーを束ねる女王の気品など、生命体達の前では無価値も同然だ。今や淫らに尻を突き出し、犬のような姿の生命体に肛門を穿られる娼婦と化していた。

「おっ♡おほっ♡ケツま♡こおっ♡射精しながらチュポチュポいいのおお♡」

最早洗脳され尽くされた彼女は、恥らう事無く雌の表情を曝け出す。以前の高貴な位や立ち居振る舞いから完全に開放され、排泄穴で快楽を貪り続ける女王……

己が交わっている者の事など、この快楽の前では考慮に値しないとばかりに、堕ちた女王は嬌声をあげ続けた。



-女忍者 ヤエ-

この得体の知れん  
生物は何だ!?  
やりにくい……!!

くっ……奇怪な  
術を使う……!!

!?



どれだけの鍛錬を積み、技を磨き、死線を越えようとも、対象が『雌』であることだけがその生命体にとっては何れも価値がある。対象が百戦錬磨の女忍者であろうと、それを『雌』に変える術を彼らは知っている。

「あっ♡あっ♡んあぁっ♡あ、あひゃまっ♡バチバチっ♡きもちいいっ♡」

四肢を肉の塊に拘束され、身動きの取れない身体を容赦なく這い回り、責め立てる触手。彼女には何らかの役割が決まっているのか、膨れ上がった両乳房からは絶えず母乳が溢れ出す。自らの身体を卑猥に改造されているにも関わらず、彼女は許容量を超えた幸福感にただただ幸せそうだ。

彼女の確固たる矜持や培ってきた技量が、雌の悦びの前に消え果ていった。

-アマゾネス女王-

くっ……  
下等生物めっ

慈悲はいらんっ  
殺せっ……

この私が  
こんな……

んふうう!!

こんな……  
汚らわしい  
粘液をおい……

んふうう!!



肉の壁が折り重なり、鼻をつく生臭い異臭が立ち込める歪な空間。捕獲した対象をここに送り込み、絶え間の無い快樂を送り込み続ける。その拷問ともいえる快樂地獄……屈強なアマゾネスの女王は、必死にその快樂拷問に耐え続けていた。

「んぶっ♡ぐぶうっ♡ごぼっ……♡んっ、んんんうううっ!!!♡」

鍛え上げられた肉体は今や触手の粘液に覆われ、乳首には触手がむしゃぶりつき、膣は奥までドロドロにされながら擦りあげられる。瞳は強烈な快樂に染められ宙を泳ぎ、戦闘民族の長たるその鋭い眼には、今やその面影は無い。自ら頬を窄めて口腔を犯す触手を舐りまわす。

何度絶頂を迎えようと、次から次に襲い来る触手に対する恐怖心は、随分前に消え失せていた。残された僅かな理性と自我が崩れ行くのを感じながら、それすらどうでもいいと思わせる程の絶望的な快樂責めを、彼女はただ受け入れるしかなかった。

**-「A」の侵食-**

**2015 09/06**

**ComicTreasure26**

**印刷 ポプルス様**

**執筆 かんた。**

**編集 真**

**発行 えっくす亭**

**Twitter @k\_n\_t\_r\_o**

**Pixiv 9110769**

**Mail x.tei.honten@gmail.com**



**X-TEI HONTEN 1'stBook**